

- 行財政整理を断行した山本権兵衛首相
 - ▽「大正政変」直後の 大正2年2月に就任
 - ▽4か月で 官吏6,878人を整理(離職を入れると1万人)
 - 経費節減6,600万円 歳出6億円の11%
 - ▽「悲運の宰相」シーメンス事件で 1年1か月で辞職
 - 関東大震災直後(大正12年9月) 第2次内閣を組織
 - 「虎ノ門事件」で またも 4か月の短命内閣に

虎ノ門事件

大正12年12月27日、摂政宮だった昭和天皇が帝国議会開院式に向かう途中、虎ノ門付近で無政府主義者・難波大助に狙撃された事件。山本内閣は引責総辞職、難波は翌年処刑された。

- 山本は、大きな存在だった
 - ▽山県有朋 桂太郎の長州閥に 対抗できた一人
 - 海相在任7年余り 日本海軍「育ての親」
 - ▽薩摩から 松方正義内閣(大正31年)以来 15年ぶり
 - 海軍からは 初の首相 引き金は「大正政変」

大正政変

明治天皇が亡くなり元号が大正に改まると、陸軍は2個師団(約5万人)増設を強硬に要求した。第2次西園寺公望内閣(大正11年)が、「財政上とても無理だ」と拒否すると、陸軍大臣が単独辞職した。陸軍は「軍部大臣現役武官制」(陸海軍大臣は現役の大將、中將に限る)を盾にとって後任を送らず、陸軍が内閣を倒した最初の例に。

代わって、長州出身の内大臣兼侍従長桂太郎(陸軍大將)が第3次内閣を組織したが、「憲政擁護・閥族打破」の国民の大合唱の前にわずか53日、内閣史上最短の記録で崩壊した。世論、民衆の力が内閣を倒した最初の例となった。

- 大正2年2月11日、桂首相の辞表提出で後継首相選考の元老会議が開かれた
 - ▽山県としても 長州 陸軍からは 出せない
 - まず「桂留任」が見送られ 西園寺も辞退した

山本 権兵衛(やまもと・ごんべゑ)

嘉永5(1852)～昭和8(1933) 薩摩藩出身。海軍大將。薩英・戊辰戦争に従軍。明治7年海軍兵学寮卒。10年独軍艦に乗組み世界周航。24年海軍省官房主事。軍務局長を経て31年山県内閣海相となり39年まで在任。大正2年2月首相。行財政整理を断行、軍部大臣現役武官制・文官任用令改正。3年3月、シーメンス事件で総辞職。5月予備役編入。12年9月、第2次内閣を組織するも虎ノ門事件で12月辞職

山県 有朋(やまがた・ありとも)

天保9(1838)～大正11(1922) 長州藩出身。陸軍大將・元帥。明治2年欧州を視察し6年陸軍卿。軍政確立、徴兵令を制定。11年参謀本部長。内相を経て22年首相。枢密院議長となり、日清戦争で第1軍司令官。31年第2次内閣で文官任用令を改正、軍部大臣現役制実施。日露戦争で参謀総長。元老として政界、陸軍に君臨

桂 太郎(かつら・たろう)

弘化4(1847)～大正2(1913) 長州藩出身。陸軍大將。陸軍次官、台湾総督歴任。明治31年陸相。34年第1次内閣を組織し日英同盟締結、日露戦争を遂行。41年第2次内閣で韓国併合。大正天皇即位と共に大正1年内大臣兼侍従長。同年12月第3次内閣を組織。護憲運動で53日で辞職

西園寺 公望(さいおんじ・きんもち)

嘉永2(1849)～昭和15(1940) 京都生まれ。公家の名門・清華家の出。明治4年渡仏。文相を経て33年枢密院議長。36年政友会総裁となり39年首相。44年第2次内閣を組織したが、陸軍増師問題で辞職。大正末からは元老として後継首相奏請

- ▽西園寺の強い推薦で 山本への大命に
- ▽山本は12日 西園寺を訪ね 政友会の支持を要請
「もし政友会で異議があるようなら
大任を辞さなければならない」
- ▽原敬は 日記に「兎に角単純の事にあらず」

●政友会指導部の立場は微妙だった

- ▽護憲運動のスローガンは「閥族打破」
最大の目標は 政党内閣の実現だった
- ▽長州閥を打倒した結果が
薩摩閥への交代では 筋が通らない
党内だけでなく 世論の強い反発が 予想された
- ▽政友会は2月17日 協議員会・代議士会
反対論が続出したが 原 松田正久の指導力で
「山本内閣支持」の決議を 取り付けた

政友会の決議

- 一、山本伯に我党の主義綱領を以て施政の方針となす事の宣明を求る事
- 二、内閣員は首相及陸海軍の三大臣を除くの外全部政党员より推薦する事
- 三、国民党との提携を持續する事

●山本内閣は2月20日発足。歴代内閣では政党内閣に最も近い形に

- ▽外相だけは 山本の希望で 牧野伸顕
- ▽原が内相 松田が法相として入閣
高橋是清蔵相ら3閣僚が 政友会に入党
- ▽しかし スタートから 激浪に襲われた

「原敬日記」

「党员も世間も閥族なりとして山本をよろこばず、故に物議騒然」

- ▽犬養毅の国民党は「山本内閣の組織は
政党内閣の本義に反するものと認む」
政友会に 提携断絶を 通告してきた
- ▽尾崎行雄 岡崎邦輔ら 24人が脱党
政友会は188議席 議会の過半数を割った
- ▽大正2年度予算案も 予算委員会が1票差
本会議が5票差で通過 発足早々のピンチだった

原 敬(はら・たかし)

安政3(1856)～大正10(1921) 盛岡南部藩出身。外務次官、大阪毎日新聞社長を経て、明治33年政友会創立に参加。35年衆院議員。39年第1次西園寺、44年第2次西園寺、大正2年山本各内閣の内相。3年政友会総裁。7年最初の純政党内閣を組織し「平民宰相」と世論の支持を受けたが、東京駅で暗殺。著に「原敬日記」

…… 西園寺の「山本推挙」の理由は ……
護憲運動の際「諒闇中の政争を心配している。紛争を收拾するよう」との詔勅を受け、総裁辞任を上奏したが、結果的に「違勅」になった責任を感じていた。自分が立てない以上、①原や松田正久では元老が政党内閣を好まず時期尚早②次期首相の決定が遅れると、桂だけを代えた藩閥・官僚内閣の恐れ③山本は早くから政友会に好意を寄せており、山本なら政友会の政策を実行する力がある。

松田 正久(まつだ・まひさ)

弘化2(1845)～大正3(1914) 佐賀県生まれ。明治23年衆院議員(通算7回当選)となり、31年大隈内閣蔵相。政友会結成に参加。37年衆院議長。第2次西園寺内閣、第1次山本内閣で法相。在任中に死去

牧野 伸顕(まきの・のぶあき)

文久1(1861)～昭和24(1949) 鹿児島生まれ。大久保利通の次男。外務省に入り駐伊・駐奥公使を経て明治39年第1次西園寺内閣文相。2次内閣農商務相。大正2年山本内閣外相。10年宮内相。14年内大臣となり政党・官僚・軍部の対立を調整した。宮廷派の中心人物として二・二六事件で襲撃されたが、難を逃れる。戦後の首相吉田茂は女婿。著に「回顧録」

▽新聞・雑誌は「二十四硬派」と志操堅固を称賛

……原は脱党者を切り崩していった

「どんなに理想論を言っていたって、野党では何も出来ない。本音は政権にありついていたのだ」岡崎自身「嫌で別れたのではない。亭主が少しだらしなさ過ぎるから、改心させるつもりで、ちょっと家出したのだ」

▽山本内閣の実績と共に 続々と 復党

年内には205議席 再び 過半数を確保した

●「さすが権兵衛」の声は、日増しに高くなった

▽東京商業会議所は 7月末 山本以下全閣僚を

午餐会に招待し 会頭中野武営は

「昔から言うは易し、行ふは難しと申します。どの内閣も整理の必要は認め、これを口にしましたが、実行できませんでした。ところが閣下は、断固として実行され、吾人のすこぶる痛快を感じるところにして、内閣諸公の功労を多とし、敬意を表せざるを得ません」

▽大木遠吉(貫)は 雑誌「日本及日本人」に

「近来出色の内閣として注目に値すべし」

▽11月10日 東京湾で 観艦式

ひときわ 注目を集めた 最新鋭巡洋戦艦金剛

巡洋戦艦金剛

明治44年1月、英ヴィッカーズ造船所で起工、大正2年8月完成。日本海軍が外国に発注した最後の戦艦で、基準排水量27,500ト。世界で初めて14吋砲8門を搭載。2回の改装で32,000ト、30ノットの高速戦艦に。太平洋戦争ではミッドウェー海戦、ガダルカナル砲撃、サマール沖海戦など、最もよく働いた戦艦だったが、昭和19年11月21日、台湾沖で米潜水艦により撃沈。

●大正3年1月12日、櫻島が135年ぶりの大噴火

▽山本は 21日の議会で 施政方針演説

時事新報記者 前田蓮山は「猛虎一声山谷震う」

▽その深夜 1通のロイター・ロンドン特電が

山本内閣の 死命を 制することになった

高橋 是清(たかはし・これきよ)

安政1(1854)～昭和11(1936) 江戸生まれ。仙台藩留学生として渡米し苦学。日銀副総裁在任中に日露戦争の外債募集に成功。日銀総裁を経て大正2年山本内閣蔵相。10年首相、政友会総裁。6度目の蔵相在任中、二・二六事件で暗殺される

犬養 毅(いぬかい・つよし)

安政2(1855)～昭和7(1932) 岡山県生まれ。明治23年第1回総選挙以来連続当選18回。31年大隈内閣文相。国民党総理として護憲・普選運動を推進し「憲政の神様」と称された。大正14年政友会と革新倶楽部合同後、政界引退を表明したが、昭和4年政友会総裁。6年首相に就任し、五・一五事件で海軍将校に射殺される

尾崎 行雄(おざき・ゆきお)

安政5(1858)～昭和29(1954) 神奈川県生まれ。明治23年以来連続当選25回。明治31年大隈内閣文相。政友会に参加、36年東京市長。大正2年護憲運動の先頭に立ち、3年第2次大隈内閣法相。昭和27年代議士生活63年の記録を樹立し国会から「名誉議員」の称号を贈られる。没後、憲政の功績を讃え「尾崎記念館」設立

岡崎 邦輔(おさき・くにすけ)

嘉永6(1853)～昭和11(1936) 和歌山県生まれ。明治24年衆院議員(当選10回)。有数の策士として知られ、第1次護憲運動を推進。大正13年加藤高明内閣農相。昭和3年貴族院議員。岡崎久彦さんは孫

中野 武営(なかの・ぶえい)

嘉永1(1848)～大正7(1918) 香川県生まれ。明治23年衆院議員(当選8回)となり護憲、営業税廃止運動に参加。東京株式取引所理事長、東京商業会議所会頭

●22日の夕刊各紙(新聞は23日)は、一斉に「シーメンス会社の贈賄事件、日本将校に贈賄」と報道

ロイター通信ロンドン特電

「伯林(ベルリン)の報道に曰く。カール・リヒテルなる者、シーメンス・エンド・シュッケルト会社の東京支店より書類を窃取せる廉を以て、2カ年の懲役を申し渡されたるが、同人は審問の際、右会社が注文を取らんがため、日本海軍将校に贈賄せし旨申し立てたり。この申し立ては世人の視聴を聳動せり」(時報23日夕刊)

▽リヒテル(シーメンス東京支店代表)が

ベルリンの法廷で 懲役2年の判決を受け

「日本の海軍将校に多額の賄賂」と証言した

▽時事新報(ロイターと粘着)は 23日の朝刊で

本社—東京支店の連絡文書の 詳細を掲載

▽コミッションで 日本海軍を動かしている実情

沢崎=沢崎猛寛大佐(艦政本部)

藤井=藤井光五郎少将(艦政本部第1部長)

▽イギリスで建造中の 巡洋戦艦金剛に

シーメンスの部品を 取り付けた際

藤井が 法外なコミッションを 要求したことに

▽「シーメンスのために

働かない軍人は免職にせよ」の 文書もあった

●この報道に、野党、長州閥、陸軍は躍り上がった

▽尾崎でさえ「山本内閣は、従来の内閣では、

一番自分の主張に近いことを実行している」

▽野党が 攻めあぐねているところへ

議会では 海軍拡張予算1億5,400万円を審議中

▽島田三郎(立憲誌)は 23日の予算委員会で

「日本海軍の威信に関わる。海軍はいかなる手段をとって、新聞が報ずるところは無実なりと天下に表明するつもりか」と 迫った

▽斎藤実海相は 真っ向から 疑惑を否定した

斎藤の答弁

2か月ほど前(2年11月17日)にシーメンス東京支店の支配人ヘルマンがやって来て、「会社の書類が盗まれ、それが外国通信員の手に移って、通信員から脅迫されている。書類には日本の

大木 遠吉(おおき・えんきち)

明治4(1871)～大正15(1926) 佐賀藩出身の枢密院議長・大木喬任の長男。明治32年父の死で伯爵を襲爵、貴族院議員。大正9年原内閣法相、11年鉄道相

前田 蓮山(まえだ・れんざん)

明治7(1874)～昭和36(1961) 長崎県生まれ。本名又吉。時事新報記者として活躍、読売新聞論説委員。著に「原敬伝」

シーメンス(Siemens)

ドイツ最大の重電機メーカー。多くの発明・発見をしたエルンスト・シーメンス(1816~1892)が創設。明治30年から日本海軍の探海灯・無線電信機・発電機の注文を一手に引き受けた。

連絡文書には海軍将校の名前

沢崎と結んだコミッション契約は、全て海軍の注文に関しては3.5%、無線電信に関する請負に対しては1.5%で支障なく行われているのに、ロンドンの藤井提督と新しい契約をするのは罪悪だ。英国で建造せる軍艦1隻につき5%、他の海軍用品注文に2.5%。こんな高額な契約を藤井と結ぶ理由がどこにあるのか。

島田 三郎(しま・さぶろう)

嘉永5(1852)～大正12(1923) 江戸生まれ。毎日新聞社長。民権論を唱え立憲改進黨結成に参加、明治23年衆院議員(当選14回)。衆院副議長を経て、大正4年議長。雄弁家として知られ、シーメンス事件追及をはじめ、足尾鉍毒、廃娼問題など幅広い活動をした

斎藤 実(さいとう・まこと)

安政5(1858)～昭和11(1936) 岩手水沢藩出身。海軍大将。明治17年駐米公使館

海軍将校の名前が載っている」と言ったが、海軍に間違っただけではないから新聞記事になっても一向差し支えない、と突っぱねた。念のため警視庁、司法省に連絡したが、10日ほどしてヘルマンから警視庁に、「この間のことは何かの間違いで無事に納まった」と連絡があった。以上の経過からも海軍には関係ないことであり、収賄するような者は存在しない。

……なぜ、徹底調査を指示しなかったのか……

検事総長の平沼騏一郎は回顧録に「齋藤自身も貰っていたのだ」真偽はわからないが、海軍首脳部に、臭いものに蓋をしたい、できれば頬冠りしたい、の気持ち。人事局長の鈴木貫太郎は「こうした時は、こちらから先手を打って人心の転向を図るべきだった。時期を失して、世論囂々と沸騰したのは誠に残念だった」

●水面下では、長州、陸軍の「権兵衛下ろし」

山県も、この話を知っていた

桂内閣が倒閣の総攻撃にさらされている頃、築地の花街で毎晩派手に札ビラを切っている男がいた。警視庁刑事が内偵したところ、シーメンスの倉庫係で、リヒテルと組み、倉庫の品を横流した金だという。上司に報告したが、なぜか捜査打ち切りを命じられた。

内相は山県直系の大浦兼武。桂内閣が大変な時に、余計な波風は立てたくない。そんな政治判断だったのかも知れないが、当然、山県は報告を受けていたろう。平沼は「島田の政府攻撃は山県がやらせたのだ」と書いている。

▽田中隆吉(輝卿)は「日本軍閥暗闘史」に荒木貞夫(当磨閣議)から直接聞いた話として「参謀本部総務部長山梨半造の策動であり、その倒閣費用が参謀本部から出ていた」

●島田は「ヘルマンをゆすった外国通信員は、ロイター通信記者プーレーだ」(26日の野籾員)

付武官、侍従武官。31年大佐で次官となり39年西園寺内閣海相。大正3年シーメンス事件で予備役。8年朝鮮総督。昭和4年再び朝鮮総督。7年首相に就任し10年内大臣。二・二六事件で暗殺される

平沼 騏一郎(ひらぬま・きいちろう)

慶応3(1867)～昭和27(1952) 岡山県生まれ。司法次官を経て大正1年から10年間検事総長。大審院長、法相を歴任し13年退官。右翼結社「国本社」を主宰。昭和11年枢密院議長。14年首相に就任、独ソ不可侵条約締結に、「欧州情勢は複雑怪奇」の声明を発し総辞職。東京裁判で終身禁固刑を受け、27年仮出所中に病死

鈴木 貫太郎(すずき・かんたろう)

慶応3(1867)～昭和23(1948) 大阪生まれ。海軍大将。人事局長、次官、連合艦隊長官、軍令部長を歴任。昭和4年侍従長。二・二六事件で瀕死の重傷を負う。19年枢密院議長。20年4月首相に就任し聖断により戦争を終結させた

大浦 兼武(おおうら・かねたけ)

嘉永3(1850)～大正7(1918) 薩摩藩出身。各県知事を経て明治31年警視総監。第1次～3次桂内閣で逓信・農商務・内相を歴任。大正4年大隈内閣内相として総選挙で選挙大干渉を行い辞職

田中 隆吉(たなか・りゅうきち)

明治26(1893)～昭和47(1972) 島根県生まれ。陸軍少将。昭和7年上海駐在中、陰謀により上海事変を起こす。関東軍参謀となり、華北分離工作を推進、11年に綏遠事件を起こした。兵務局長の時、東条陸相と対立し17年予備役。戦後、東京裁判で張作霖爆殺事件が関東軍の陰謀だったことなど、暴露的証言をした

リヒテル、プーレーの恐喝

リヒテルは最初、盗んだ機密書類でヘルマンを脅したが、拒絶されたためプーレーに750円で書類を売り込んだ。プーレーは「ニュースにするより一儲け」と、ヘルマンに25万円とふっかけた。ヘルマンは、斎藤海相を訪ねたが相手にされず、プーレーと5万円で話をつけて取り戻した書類を焼却した上で、警視庁に「円満解決」と連絡した。

端金しか手にできなかつたリヒテルは、写真に撮っておいた書類でシーメンス本社をゆすって捕まり、ロンドン特電で流したのが、プーレーの勤めるロイター通信だった。

●海軍省は1月28日、査問委員会を設置

▽司法省に 正式に捜査を依頼

主任検事は 37歳の小原直(東京地検特捜部の親)

▽捜査は プーレー ヘルマンの逮捕から 始まった
ヘルマンは「書類は設計など技術的なもので、コミッションとは全く関係ない。海軍に迷惑をかけるといけないので、焼いたまでだ」

▽小原検事の頭には 海軍無線電信所(船橋市田)

契約価格75万4千円(大正2年7月2日契約)

シーメンス担当は吉田収吉 海軍は沢崎大佐

▽頑強に否認する吉田に 突き付けたのが

銀行から押収した 吉田の小切手帳の控え

「大正2年10月15日 金2千円 渡先沢崎」

▽2月8日 出頭を求められた沢崎は 収賄を認めた

..... 沢崎は可哀相な海軍士官だった

病気がちの妻、5人の子供を抱え、沢崎も結核に冒されていたが、隠して勤務を続けていた。吉田は、一切出入り商人を近付けない沢崎に、子供同士が同じ小学校なのを利用し沢崎の妻に近付いた。病気で寝ている枕元に「お子さんの養育費に役立ててほしい」と、現金の入った手提げ金庫を置いていった。帰宅した沢崎は、賄賂とは知りながら、子供たちの将来を考え、銀行の定期預金にした。収賄金額1万1,500円。

荒木 貞夫(あらき・さだお)

明治10(1877)～昭和41(1966)東京生まれ。陸軍大将。昭和6年犬養内閣陸相。斎藤内閣にも留任、皇道派の指導的存在。近衛、平沼内閣文相。東京裁判で終身禁固刑を受けたが、29年仮釈放

山梨 半造(やまなし・はんぞう)

元治1(1864)～昭和19(1944)神奈川県生まれ。陸軍大将。参謀本部総務部長を経て大正7年次官。10年高橋内閣陸相となり「山梨軍縮」を行う。昭和2年朝鮮総督。朝鮮疑獄事件に連座し4年辞任

小原 直(おはら・なおし)

明治10(1877)～昭和41(1966)新潟県生まれ。明治35年司法省に入り、大正10年東京地検検事正。昭和2年司法次官。9年岡田内閣法相。二・二六事件で北一輝ら民間人の軍法会議に反対した。14年阿部内閣内相。戦後29年に吉田内閣法相

東京地検特捜部

発足は昭和24年5月14日。前身は「隠退蔵事件捜査部」。敗戦のどさくさに紛れ、政府、軍関係者が多くの物資を隠匿した。摘発の中心となったのが、帳簿と金の流れを重視する小原の指導を受けた経済検事だった。

海軍無線電信所

昭和16年12月1日の御前会議で開戦が決まると、連合艦隊旗艦長門は2日午後5時30分、「新高山登レー二〇八」
—「開戦の日は12月8日東京時間午前零時」を発信した。

この暗号電報は船橋の高さ200㍎の大鉄塔から、短波と長波の2つの波に乗ってハワイ真珠湾攻撃に向かう機動部隊など、全艦隊に送信された。

●新聞は連日、「薩摩海軍の腐敗」を追及した

▽「官吏のコミッションを取るは、
間接に国庫の金を盗むに当る」
子供たちの間に「コミッションごっこ」の遊び
▽海軍には 比較的暖かだった 世論の風向きも
「軍艦で私腹を肥やしている」に 怒りが爆発

●2月10日、立憲同志会、国民党など野党は「山本内閣不信任案」を提出した

▽1年前は 桂内閣が 総辞職に追い込まれた日
野党議員は みんな 胸に白バラをつけ 議場へ
▽桂内閣の時と違うのは 与党政友会が 絶対多数
午後3時 不信任案を否決したが
国会は 3万の群衆に 囲まれていた

…… 陸軍のサボタージュ ……

原敬内相の心配は民衆の暴動だった。そこで前日、陸軍と打ち合わせて「出兵要請をしたら3、40分で歩兵第3連隊(麻)が駆け付ける」約束になっていた。ところが、軍隊は一向にやって来ない。議場から政友会議員が出てくると、取り囲んだ群衆が「殴ってしまえ」の罵声。原は議場脇の道路を警官隊に開かせて脱出させたが、兵隊がラッパを吹きながら来たのは、出兵要請をしてから2時間半も経ってからだった。

●シーメンス事件は、実は「ヴィッカーズ事件」だった

▽日本海軍は 日清戦争が終わると
ロシアに備え「六六艦隊」(戦艦6隻 1等巡洋艦6隻)
▽推進したのは山本 全て 外国に発注
▽財源は 清国からの賠償金・遼東半島還付金
3億6千万円を 英ポンドで受け取り
ロンドンにプールし 戦艦三笠などの支払いに
▽海軍は「帝国国防方針」(明治40年4月制定)で
「八八艦隊」(戦艦8隻 巡洋戦艦8隻)を 目指していたが
弩級戦艦 超弩級戦艦出現で 計画を大幅に手直し
▽43年7月 海軍拡張予算8,200万円が
閣議決定されると 超弩級戦艦 5隻の建造に
▽1号艦金剛は イギリスに発注 その最新技術を
国内建造の4隻(比叟 貉 鷄 猱)に 生かす狙い

…… 新聞には海軍非難の漫画 ……

「松の皮喰う人、軍艦を喰う人」 貧苦にあえぐ庶民は松の皮をかじっているのに、でっぷり太った海軍の軍人が、軍艦を手玉にとっつかぶりついている。
節分の日(2月3日)には「輿論山糾弾寺の節分会」と題して、「福はア内 鬼はア外 コミッションで払ひましよう エト厄払ひ」と風刺した。

—— 朝日新聞はトップで「宣戦の日」——

「10年前の2月10日は、明治天皇がロシア帝国に宣戦布告をされた日だ。今やこの日を以て、山本内閣に対する宣戦の烽火を挙げ、日比谷の原頭に国民大会を開き、さらに進んで国会に迫ろう」

…… 大艦巨砲時代と建艦競争 ……

海軍の主力艦国産化は、日露開戦の直前(明治36年11月)、横須賀、呉、佐世保、舞鶴に海軍工廠が設置されてから。戦艦薩摩、安芸、鞍馬(12砲4門、18ノット)を建造したが、39年12月、英戦艦ドレッドノート(17,500ト、12砲10門、22ノット)の出現で、一夜で旧式戦艦になった。
41年、弩級戦艦河内、摂津(20,800ト、12砲12門、20ノット)建造にかかったが、完成しないうちに超弩級戦艦ライオン(26,000ト、13.5砲8門)が登場した。

…… ヴィッカーズ アームストロング ……

イギリスの造船会社。ヴィッカーズは1820年創立。海軍の大砲を生産、1897年に造船所を買収して本格的造船に取り組んだ。アームストロングは、アームストロング砲を開発したウィリアム・アームストロング(1810~1900)の興した会社で、19世紀末の軍拡競争で大きな利益を上げた。両社は1927年に合併、第2次大戦では250隻の軍艦を建造した。

- ▽金剛の競争入札に 指定されたのが
 ヴィッカーズ(旧社名 三井物産)
 アームストロング(旧社名 高田商会)
- ▽受注獲得をめぐり 激烈な競争
 アームストロングは 14隻も受注しているのに
 ヴィッカーズは 三笠 香取の 2隻だけ
- ▽三井物産は 松尾鶴太郎(元海軍艦長)を 技術顧問に
 首尾よく 金剛受注に 成功したが
 その裏では 莫大な金が 動いていた

- 捜査は、ヴィッカーズへ向けて急ピッチで
 - ▽大正3年2月18日 平沼検事総長は 検事を指揮し
 呉鎮守府長官 松本和(やち)中將の官舎を搜索
 直前まで 艦政本部長 40万円収賄していた
 - ▽金剛は 建造費2,360万円 代理店手数料115万円
 松本中將の成功報酬は 35%も払われていた
 - ▽3月17日 吉田収吉が 東京監獄で縊死
 新聞は「これで捜査は終わり。海軍高官には
 安堵の胸を撫で下ろしている者が多いだろう」
 - ▽捜査の詰めは 終わっていた
 松本中將は 3月26日 検事局に出頭
 軍法会議に送られて 収監される時
 鈴木人事局長に「自分は周りの者から次の海
 軍大臣だとおだてられ、ついその気になった。
 ご承知の通り、海軍には機密費が少なく、政界
 で思うように活躍できない。そこで、大臣にな
 った時のために予め機密費を用意しておこう
 と思って、収賄してしまった」

- 衆議院に強い山本内閣も、貴族院という弱点
 - ▽勅選議員120人には 山県系の
 官僚出身者が多く 山県の牙城だった
 - ▽政府は 世論をなだめるため 大正3年度予算から
 戦艦1隻分 3千万円を減額し 3月12日
 衆議院を通過させたが 貴族院は 強硬だった
 - ▽村田保は「国民は、閣下を国賊と呼んでいる。監獄
 に行けば閣下と同じ顔つきの者は沢山いると言
 っている」山本の辞職を迫り 議員を辞職した
 - ▽貴族院は 13日の本会議で 海軍予算
 7千万円減額を 284対44 圧倒的多数で可決

捜査のカギを握る藤井少将

小原検事の住まい(願)の裏には、藤井の豪壮な邸宅。土地だけでも1,200坪。明石、大津に別荘。3,000円もする自動車を乗り回し、数か月間、築地の料亭に入り浸り。検事局で藤井は「私は海軍軍人だ。金品は一切受け取っていない」と大見得を切り、車も借り物と主張した。ところが、遠縁の車の持ち主を追及すると、「名義を貸しただけで車は藤井の物だ」と認めた。しかも藤井から17,8回に分けて現金を預かったが、「余りに額が多いので株券や公債にしてある」調べると621件、総額30万円を超していた。

口を開かせたのは1冊の帳簿

小原検事は、三井物産から押収した帳簿を見直しているうちに「仮払金」の3文字改竄に気が付いた。帳簿係は「貸付金」とあったのを書き直せと言われ、小刀で削ったと言う。しかし最後の「金」の字まで削る必要はないわけで、別の字だったに違いないと、よく見ると鉛筆で書いて消した跡があり、片仮名の「キ」、機密費だった。

貴族院

明治憲法下で、衆議院と共に帝国議院を構成した機関。明治23年創設、昭和22年廃止された。2院制の上院に当たり皇族議員・華族議員・勅任議員(勅選議員と勅任者、のち皇族議員)369人で組織。予算は、衆議院に先議権があるだけで同等の権利を持っていたため、政党勢力から政府を守る防波堤の役割が期待された。

山本内閣は窮地に陥った

内閣存続の唯一の道は、両院協議会で貴族院の修正案を丸呑みすることだった。しかし「衆議院を以て世論の

▽両院協議会(10人づ)は 19日

議長が 貴族院から出たため 10対9で

衆院予算案を採決 山本内閣の命運は 決まった

▽3月23日 予算案は 再び 貴族院で否決されて

不成立となり 山本内閣は 24日総辞職した

▽議場から出てきた 山本の目には 涙がいっぱい

牧野伸顕外相は 回顧録に「あの山本が涙を流したのを見たのは、私より他にいないだろう」

..... 大隈重信内閣で法相の尾崎行雄は

山本の死後、「山本伯と私」と題する回想文に「職務上調査した所が、世間の或る部分に専ら噂されたような、山本自ら収賄に関係した証拠は一つも挙げなかった。その配下には収賄した人がいたが、山本自身は全く潔白だった。折もあつたら面会して淡泊に当時の事情を話し合ってみたいと思っていたが、その機会を得ずに幽明異にすることになったのは、遺憾に堪えない」と書いている。

●次々と海軍軍法会議の判決が出た

▽沢崎大佐(5月15日) 懲役1年 追徴金1万1,500円

松本中将(5月19日) 懲役3年 追徴金40万9,800円

藤井少将(9月3日) 懲役4年6月 追徴金36万8,306円

▽山本と齋藤は 5月11日 予備役に編入

▽山本は この事件がなければ 元帥・終身大将に

海軍に 影響力を失ったことは

海軍だけでなく 日本の 大きな損失に

●明治・大正の日本海軍を引っ張った山本権兵衛、齋藤実、加藤友三郎

山梨勝之進の言葉

山本権兵衛大将の前にたつと、爛々とかがやく灼熱の太陽の前にあるおもいがする。加藤友三郎大将の前に立つと、何物をも一点の狂いもなく映し出す名鏡の前にたったおもいがする。齋藤実大将とともにあるときは、美しいサロンに座し、香り高いウイスキーを杯に酌み、静かに語るおもいがする。

府」と任ずる政友会にとっては、政党の存立に関わる事だった。

田健治郎は日記に

「天下の世論が内閣の失政を咎むることかくの如く激甚なのは維新いらいなかったし、上院が一致して内閣不信任を表したことも憲政いらい見ないところである」

田 健治郎(てん・けんじろう)

安政2(1855)～昭和5(1930)兵庫県生まれ。各県警察部長、逓信次官を歴任し明治39年勅選貴族院議員。大正5年寺内内閣逓信相。8年台湾総督。12年農商務相。参院議員田英夫さんは孫

大隈 重信(おおくま・しげのぶ)

天保9(1838)～大正11(1922)佐賀・鍋島藩出身。明治3年参議、6年大蔵卿となるが「14年の政変」で免官。翌年、立憲改進黨総理となり、東京専門学校(現大)を創立。21年外相となり、条約改正交渉をするが、爆弾を投げられ右足切断。31年憲政党を結成、史上初の政党内閣を組織。大正3年再び首相となり、対独宣戦布告し、中国に「21か条要求」を突き付ける

山梨 勝之進(やまなし・かつのしん)

明治10(1877)～昭和42(1967)仙台市生まれ。海軍大将。海軍省副官兼海相秘書官、人事局長を経て昭和3年海軍次官となり、ロンドン軍縮条約締結に尽力。佐世保・呉鎮守府長官を歴任、8年予備役。14年から21年まで学習院長として皇太子(馱皇)の教育に当たる。34年82歳の時から海上自衛隊幹部学校で講義、42年に亡くなる直前まで続けた。原稿は大学ノート40冊にも及んだという

●「灼熱の太陽」を戴いた山本内閣には、三つの業績

▽目に見えて大きかった「行財政整理」

▽「軍部大臣現役武官制」を改正

「現役」の2文字をはずし 予備 後備役でも
大将 中将であれば 大臣になれるようにした

▽「文官任用令」の改正

特別任用できる範囲を 広げた

各省次官(藩閥を除く) 法制局長官

内務省警保局長 警視總監 各省の勅任参事官

●山本の突進力 — この三つを「同時進行」でやった

▽組閣1か月後には 原内相を責任者に

各省次官に「整理断行」を指示した

▽4月14日から 土・日を休んだだけで

7日間連続の閣議を開き 次々と 決めていった

▽大蔵省の関税局 国債局を廃止し

主税局と理財局に 吸収する

農商務省の 商務局 工務局を合併 商工局に

▽法律や勅令の 制定 改廃178件

▽高等官を818人

判任官(大、中、小の欄で採用)を入れ 6,878人を整理

▽行政整理額は 7,037万円

初年度分の節約だけでも 6,600万円

▽プランは 西園寺内閣の時に

ある程度できていたが どの内閣も

「必要だ」と 言いながら 実行できなかった

●20年前、明治26年に海軍改革に大ナタ

▽山本大佐(藩閥)は 西郷従道海相に迫り

将官8人を含む 幹部97人の整理を 断行した

▽「大佐大臣」「大佐暴君」と 非難轟々

ためらう西郷に「これお国の大事、海軍の大事。
涙を奮って断行せねばならない。他日戦争にで
もなれば、予備役を現役に復して大いに働き場
所を与える道もあるから…」

▽「薩の海軍」の 藩閥の壁を破り「日本の海軍」に

▽参謀本部に属していた 海軍の作戦機関を

軍令部として 独立させた(5月19日)

▽山県は 9時間に及んだ会談が 終わった時

玄関まで出て 目礼して 送ったという

加藤 友三郎(かとう・ともさぶろう)

文久1(1861)～大正12(1923) 広島県生
まれ。海軍大将。明治38年連合艦隊参謀
長となり日本海海戦に勝利。海軍次官、
呉鎮守府長官。大正4年大隈内閣海相に
就任、寺内、原、高橋内閣に留任。ワシン
トン会議全権として海軍軍縮条約に調
印。11年首相となりシベリア撤兵、陸海
軍軍縮を行う。死後、元帥の称号

— 文官任用令 —

明治32年3月、第2次山県内閣は抜き
打ち的に文官任用令を改正した。「勅
任文官無試験任用制度」を廃止し、以
後、原則として勅任官(講官1、2等)には
高等文官試験を経て奏任官(3階下)に
任官した者を昇任させる制度に改め
た。政党勢力の官僚機構への浸透を
防ぐ狙いで、33年4月に憲政党の要求
もあり、内閣書記官長、各省官房長だ
けは、大臣と進退を共にする「自由任
用」の官になった。

西郷 従道(さいこう・つぐみち)

天保14(1843)～明治35(1902)薩摩藩出
身。海軍大将・元帥。西郷隆盛の弟。明治
2年渡欧し、陸軍大輔、近衛都督歴任。18
年伊藤内閣海相兼農商務相。以後6代の
内閣で海相、内相を務め、元老、「薩の海
軍」の巨頭として軍・政界に重きをなす

…… 山本を改革に駆り立てたのは ……

文久3年、12歳の時に薩英戦争で、鹿
児島が英東洋艦隊の砲撃により火の
海になるのを見ている。弾運びをし
た山本少年に強烈な衝撃を与えたの
が、砲弾の違い。こっちがタドン丸
めたようなものに対しアームストロ
ング砲は砲弾の先が椎の実のように
尖っていて、スピード、破壊力が段違
いだった。明治10年、独軍艦に乗り組

▽数日後の閣議で「余りに世間の評判が悪いので、山本を誤解していたが、信頼すべき海軍の軍人を発見した。思慮綿密で、堅実、的確な人物だ」

— 精悍・突進型に見えても細心・周到だった —

山本の長男は「何をするにも決して無謀なこととはせず、十分に研究を重ね、いよいよ良くなって初めて、それに向かって突進する人」

明治31年、45歳の若さで海相になった山本が真っ先に訪ねたのが福沢諭吉。「六六艦隊」推進には、言論界のバックアップが必要だ、と思ったのだ。理路整然と説明する山本に、福沢は「あれは軍人ではなくて学者だ」と感心、自ら時事新報の紙面で海軍拡張の必要を訴えた。

●外では「えらそぶっている」と、傲岸尊大

▽外人が 握手を求めても

椅子に座ったまま 悠然と 手を差し伸べた

▽山本が座っただけで「座敷は敵味方に分かれた」

▽敵の多い人だったが 海軍を統制できたのは

人を見る目が確か 能力主義に徹し 公平な人事

▽山本以後 薩摩から 海相 軍令部長は 1人ずつ

▽何よりも 優れていたのは

世界の動向を掌握する 能力 識見だった

●一番大きな改革は、「軍部大臣現役武官制」の改正

▽最も苦勞し また 山本でなくては 出来なかった

— 軍部大臣現役武官制 —

明治31年6月、憲政党の第1次大隈内閣が誕生した時、山本は「明治国家の落城」と嘆き、危機感を抱いた。第2次内閣を組織すると、33年5月19日、陸海軍省官制を改正、職員表の付表に備考を1行「大臣及次官二任ゼラレル者ハ現役将官ヲ以テス」を付け加えた。職員表には「陸海軍大臣ハ大、中将ヲ以テ補任スル」の規定があり、それまでは大将、中将であれば現役を退いた予備役、後備役でもよかったのが、現役でないと大臣になれなくなった。この「現役」の2文字が、第2次西園寺内閣を倒すことになった。

んでヨーロッパから南米へ回り、1年4か月も先進国海軍の技術を学んだ。当時の海軍は、幕府海軍から入った者、陸軍から移った者、各藩から飛び込んだ者と、雑多な寄り合い所帯。豪傑は多いが、近代化されていく軍艦、兵器について行けない。明治19年「長崎事件」が起きた。清国北洋艦隊の定遠、鎮遠(7,400ト)が長崎に入港。清国水兵が警察署を襲撃し乱暴狼藉しても手が出せず、1日も早い出港を祈るだけ。海軍軍人をからかって、「君、定遠に勝てるかね」が流行り言葉に。

福沢 諭吉(ふくざわ・ゆきち)

天保5(1834)～明治34(1901) 豊前中津藩出身。安政5年藩命で江戸で英学を学び、幕府遣外使節に3度随行して欧米を視察。明治1年慶応義塾創設。著に「西洋事情」「学問のすゝめ」。15年時事新報を創刊して論陣を張った

— 家庭の山本 —

妻は、新潟の漁村から品川の遊廓に売られてきた女性だった。25歳の時、17歳の少女を見初めて、「君はこんな所にいる女性ではない」と、仲間の海軍士官の助けを借りてカッターを品川海岸に乗り付け、助け出した。

明治11年、海軍中尉に昇進する時に結婚したが、誓約書を交わしている。「夫婦は互いに礼儀を守ること、夫婦むつまじく互いに不和を生ぜざること」新婚早々の奥さんを自分の軍艦に案内し、その姿は「後ろ指をさす者がいれば許さんぞ」と言わんばかり。布団の上げ下ろし、部屋の掃除から、専用の針箱を持っていて、靴下、洋服の繕いも自分でしたという。

▽議会で 政友会脱党議員が 山本に

「現役武官制が憲政運用上、支障にならないか」

▽廃止は 政友会の かねてからの主張

原敬も「脱党者を戻すには、廃止は絶対に必要」

▽山本は 3月11日 改正を約束した

「いかにも現行制度は、憲政運用上支障なきを保し難い。つきましては、慎重審議を尽くし、相当の改正を実施することを期しております」

▽山本は 決断すると 早かった

木越安綱陸相に「内閣の公約となった以上、これは内閣の進退に関わる問題だ」

●木越も一度は同意したが、陸軍省、参謀本部は大反対

▽長州全盛の陸軍で 外様(副)の弱い立場

長谷川好道参謀総長(副)に「絶対反対」と突き上げられ 再び 態度を変えた

▽山本は「統帥権」を 逆手にとった

▽長谷川を呼び「制度の改正は政府の所管事項であって、統帥権に関するのではない」を 確かめ「それなのに参謀総長が反対するのはなぜか」

▽長谷川が「おやりになると言うなら、おやりになったらいいでしょう」と 捨て台詞を吐くと「総長は憲法を精神をよく理解しておられる」

長谷川の目の前で 木越の同意を 取り付けた

▽長谷川は 葉山の御用邸に 2度も出向き

詔勅で 改正を止めさせさせようとしたが 大正天皇は 許されなかった

●「現役武官制」改正は大正2年5月2日、閣議決定された

▽まだ 枢密院の難関が 残っていた

枢密院(明治21年4月30日設置)

重要な国務及び皇室の大事に関し、天皇の諮問に答える最高の合議機関。議長・副議長・顧問官で組織し、国務大臣、成年以上の親王も参加できた。昭和22年廃止。

▽顧問官には 山県直系の官僚出身者 議長も山県

▽山県は「制度改正には枢密院の審議が必要」

簡単に、いじられぬよう 歯止めをかけており 陸軍は ここで 改正案を 一挙に潰そうとした

木越 安綱(きし・やすつな)

安政1(1854)～昭和7(1932)石川県生まれ。陸軍中將。明治10年ドイツに留学、桂太郎に引立てられ軍制を仏式から独式に切り替える推進役に。軍務局長、師団長を経て大正1年桂内閣陸相。山本内閣にも留任したが、2年6月辞職

長谷川 好道(はせがわ・よしみち)

嘉永3(1850)～大正13(1924)長州藩出身。陸軍大将・元帥。近衛師団長、韓国駐劄軍司令官を経て明治45年参謀総長。大正5年朝鮮総督。前総督寺内正毅の方針を受け継ぎ武断統治を行ない、8年朝鮮民族の激しい抵抗の中、辞任した

— 木越は陸軍総反対の中で決裁 —

陸軍省が閣議提出の制度改正案が、今も防衛省に残っている。起案者(驍)が「本案ハ不同意ナレドモ特ニ大臣ノ命ニ依リ提出ス」宇垣一成(驍)は「帝国建軍ノ基礎ヲ危フクシ、国家ニ害毒ヲ流ス」として中止を求め、課長クラス全員の反対付箋がついている。最後に「決裁」として「参謀本部ノ回答ヲ待ツコトナク直ニ決行スルコト 大臣花押」となっていた。

宇垣 一成(うがき・かずげ)

慶応4(1868)～昭和31(1956)岡山県生まれ。陸軍大将。陸軍省軍事課長の明治2年、軍部大臣現役武官制改正に反対し歩兵第6連隊長(佐)に転出。参謀本部総務部長、陸軍次官を歴任、13年清浦内閣陸相。加藤高明、若槻内閣に留任、4個師団廃止の軍縮、学校教練制度実施。昭和4年浜口内閣陸相となり、陸軍に宇垣時代を築く。6年朝鮮総督。12年1月組閣の大命を受けたが中堅幹部の反対で陸相を得られず断念。13年近衛内閣外相。28年参院選に全国区で最高点当選

▽5月29日 枢密院会議に 照準を合わせたように

「陸軍省官制に関する研究」(30頁)の怪文書

4千部が 顧問官 陸海軍の軍人に 送られた

▽執筆者は 匿名で 宇垣一成大佐(軍職)

▽山本は ひるまない 枢密院会議には

顧問官(頼28)を 24人に減らす案を 出していた

▽顧問官の任免権は 首相が握っており

ぐずぐず言うなら「代えてしまうぞ」

▽山本は 病気を理由に 会議を欠席

枢密院も 原案通り 改正案を可決し

6月13日 勅令で「現役」の2文字が 削除された

▽山本は この日 首相官邸の晚餐会に

新聞記者を招待し 行政整理の大綱を発表

どの新聞も 2頁の大特集を組み 拍手を贈った

●木越陸相は6月24日辞職、後任は楠瀬幸彦中将

▽田中義一少将(歩兵第2旅団長)は

長州の先輩 寺内正毅(勳1等)に 木越非難の手紙

「陸相ハ山本首相ノ願使ニ甘ンジ陸軍ヲ破壊

シテモ政友会、否現内閣ノ成功ヲ助ケントシ

之レガ為ニハ手段ヲ撰バズ」

▽長州の意に反しては 陸相は勤まらないし

陸軍下剋上の 始まりでもあった

…… 陸軍のショック ……

陸軍省はこの時、編成、動員の2課を参謀本部

に移管した。もともと参謀本部にあったが、寺

内が陸相時代の明治41年、参謀本部の権限が

強過ぎるとして陸軍省に持ってきた。「帷幄上

奏権」— 統帥機関の長である参謀総長、軍令

部長は軍機軍令事項について直接天皇に上奏

できたが、編成・動員は軍機軍令に該当するから、

これにより陸相権限を強化しようとした。

それを参謀本部に戻したということは、予備

・後備の将官が陸相になった場合、統帥事項に

影響が出ないようにした防衛策だった。

●陸軍専横、身勝手な論理の始まりだった

▽陸軍刑法第103条は「政治に関し、演説もしくは

文書を以て意見を公にすること」を 禁じていた

— 宇垣の怪文書 —

第一に、軍人に最も忌むべき党派的思潮を醸成する。軍人は軍務以外は、超然と世論の外に立っているべきであり、明治天皇も軍人勅諭で「政治に拘るべからず」と諭されている。

第二に、予備、後備の軍人は、老朽者が無能力者で、そんな者が大臣になれば、軍事上の発展を阻害する。

楠瀬 幸彦(くすのせ・さちひこ)

安政5(1858)～昭和2(1927)高知県生まれ。陸軍中将。樺太守備隊司令官兼樺太庁長官を経て大正2年山本内閣陸相

田中 義一(たなか・ぎいち)

元治1(1864)～昭和4(1929) 長州藩出身。陸軍大将。明治44年軍務局長。2個師団増設を要求、拒否した第2次西園寺内閣を陸相辞職で倒す。歩兵第2旅団長を経て大正4年参謀次長、シベリア出兵を強行。7年原内閣陸相。14年政友会総裁。昭和2年首相に就任し山東出兵。張作霖爆殺事件で天皇から叱責され辞職

寺内 正毅(てらうち・まさたけ)

嘉永5(1852)～大正8(1919) 長州藩出身。陸軍大将・元帥。明治35年桂内閣陸相。43年朝鮮総督。大正5年首相に就任、シベリア出兵を強行、米騒動で総辞職

田中は「大隈担ぎ出し」を画策

桂の作った新党・立憲同志会は国民党から46人が参加しただけで総数90人。田中は寺内に「これを政友会の対抗勢力にするには、長州、陸軍の援助が必要だ」として、過渡期の便法として大隈を同志会総裁にしたらどうかと進言している。田中は歩兵第3連隊長時代(明治41年)、大隈を連隊に招いて講演させるなど、親しい仲だった。

▽宇垣の怪文書は 軍法会議の対象になる行為
陸軍は 宇垣をかばって 表沙汰にせず
歩兵第6連隊長(祐雄)に 転出させただけだった

▽宇垣は「憂国の至情から
ばれたら軍法会議も覚悟でやったのだ」
▽「憂国の至情」は 五・一五事件 二・二六事件
軍人のテロのたびに その口実となっていく

●現役制廃止が、日本の政治にどんなに大きな意味

▽「因果は巡る」24年後 他ならぬ宇垣が証明
▽昭和12年1月24日 宇垣に 組閣の大命
▽深夜 伊豆長岡から上京した 宇垣の車は
六郷橋のたもとで 止められ
憲兵司令官が 寺内寿一陸相の伝言を 伝えた
「軍の若い者が騒いでいて、容易ならぬ情勢
だから、大命を辞退してほしい」

▽宇垣は そのまま参内し 大命を受けたが
結局「宇垣内閣」は 出来なかった
▽陸軍は「三長官会議(齋 鐵 齋 齋 齋)」で3人の候補
を挙げて交渉したが、みんな「自信がない」と辞
退し、陸軍には他に推薦すべき人物がない」
▽5代の内閣で陸相「宇垣時代」を築いた宇垣が
陸相を得られず 組閣を 断念するしかなかった

●現役武官制が広田弘毅内閣時代(昭和11年5月18日)に復活
していた

▽広田には 城山三郎さんの「落日燃ゆ」
▽戦争突入の歴史を考えると 陸軍の暴走を
食い止めるチャンスは この時しか なかった
▽広田の組閣構想に 陸軍はすぐ 横槍を入れた
外相吉田茂 牧野伸顕の娘婿で 自由主義者
法相小原直 美濃部達吉の「天皇機関説」に理解
5人の入閣候補者を ダメだとした上で
「これは全軍一致の要望である」と 陸相声明
▽二・二六事件を起こしたばかりの 陸軍が
公然と 政治に 介入してきた
▽広田は「肅軍第一の時に何事だ」
大命を辞退してでも 抵抗すべきだった
▽「軍の総意」に 政治介入を 許したことが
日本の 大きな 躓きに

国民党のリーダー犬養毅は、大隈参議の下で統計院の役人をしていて、「明治14年の政変」で大隈が参議を追われると、犬養も辞職、大隈創設の立憲改進黨に参加し、参謀格になった。しかし犬養にとって同志会は、国民党を分裂させた憎むべき敵。そこで、大隈を同志会総裁にして犬養を抱き込み、強力な野党連合を作ろうというのだ。山本内閣の後、大隈内閣となるレールはこの時に敷かれていたことになる。

寺内 寿一(てらうち・ひさち)

明治12(1879)～昭和21(1946)東京生まれ。陸軍大将・元帥。正毅元帥の長男。朝鮮軍司令官、台湾軍司令官を歴任。昭和11年3月二・二六事件で先輩の大將が全て引退したため、広田内閣陸相に就任。北支方面軍司令官を経て16年南方軍総司令官となり、シンガポールで病死

広田 弘毅(ひろた・こうき)

明治11(1878)～昭和23(1948)福岡県生まれ。駐ソ大使を経て昭和8年齋藤内閣外相。岡田内閣にも留任。11年3月二・二六事件後に首相。5月に軍部大臣現役制を復活、日独防共協定など、準戦時体制を推進。近衛内閣外相。重臣として東条英機を首相に推すなど親軍的立場をとる。東京裁判で文官中ただ1人絞首刑

吉田 茂(よした・しげる)

明治11(1878)～昭和42(1967)東京生まれ。駐伊・駐英大使。戦争中、和平工作を行い昭和20年4月憲兵に逮捕される。戦後、東久邇、幣原内閣外相を経て21年首相。5次の内閣を組織し対日講和条約を締結。引退後も元老的存在として政府、自由党に大きな影響力を持った。国葬

●陸軍は、形ばかりの肅軍をした

- ▽真崎甚三郎 荒木貞夫(鑑蔵)ら 7大将を予備役
- ▽次に 現役武官制復活 「今のように予備役、後備役でもいい制度にしておく、真崎や荒木などが大臣になって、再び軍の中に派閥争いが起こるかも知れない。それでは肅軍を徹底できない」
- ▽閣議では 反対らしい反対もなく 認めた
- ▽現実には 23年間 予備・後備の陸相は 出ていない
- しかし 予備・後備に 広げてあったから
- 陸軍が 横車を押すことが 出来なかったのだ
- ▽現役制こそは 軍部独裁の「伝家の宝刀」

●「宇垣なら…」の待望論は強かった

- ▽組閣に苦しんでいる時 組閣本部には「もう一息だ」「頑張って」
- 激励電報が 毎日 何千通も殺到した
- ▽二・二六事件以後 政治の主眼は 陸軍を どう抑えるか だった
- ▽宇垣には 4個師団廃止の 軍縮の実績
- ▽重臣は「宇垣なら抑えられる」と 期待したし 国民にも 宇垣に「何とかしてほしい」

— 獅子文六は日記に書いている —

宇垣さんがあゝいうことになって、どうにもならないムシャクシャが、晩酌を一本追加させ、女房に小言を言って、寝床に潜り込む晩を続かせた。

●「宇垣内閣反対」は、陸軍中堅幹部の突き上げ

- ▽陸軍首脳は 24日夜「宇垣大命」に会議
- 石原莞爾(参謀本部作戦部長)は「肅軍の途上に於て派閥感の強い将軍の出現は適当でない。また国防充実を図らんとする時、軍縮の前歴を持つ宇垣を首相に迎えることは大きな問題である」
- ▽「軍務課政変日誌」は 協議の結果を「陸軍入閣拒絶ノ件」と 記録している
- 「宇垣総理大臣候補者ヨリ陸軍大臣推薦ノ交渉ヲ受ケタル場合ニハ、左ノ理由ヲ以テ拒絶スルヲ要ス 宇垣総理大臣ノ許ニ於テハ、陸軍大臣トシテ部内統制ノ責ニ任シ得ル者無シ」

真崎 甚三郎(まき・しんざぶろう)

明治9(1876)～昭和31(1956) 佐賀県生まれ。陸軍大将。昭和9年教育総監。荒木と共に皇道派青年将校の指導的存在となったが、皇道派による事件が相次ぎ、翌年罷免。これが二・二六事件の導火線となり、軍法会議にかけられたが無罪

…… 宇垣には相反する評価 ……

陸軍中尉に昇進するとき「精神一到何事か成らざらん」と、李次という名前を一成に改めたが、「日本一になるのを目指した」と言われるくらい、若い頃から野心に燃えた軍人だった。「単なる野心家だ」の声がある反面、満州事変の時の首相若槻礼次郎は高く買っている。「陸軍大臣の南次郎は政府の不拡大方針を出先に押し通すことができず、てんで物にならなかった。宇垣がいてくれたら、十分睨みをきかせることも出来たろうに…」

若槻 礼次郎(わかき・れいじろう)

慶応2(1866)～昭和24(1949) 島根県出身。蔵相を経て大正15年首相に就任、金融恐慌のため辞職。昭和6年再び首相となるも満州事変で8か月で辞職。重臣として終戦に尽力。著に「古風庵回顧録」

南 次郎(みなみ・じろう)

明治7(1874)～昭和30(1955) 大分県出身。陸軍大将。参謀次長を経て昭和6年若槻内閣陸相。関東軍司令官、朝鮮総督歴任。東京裁判で終身禁固。29年仮出獄

獅子 文六(しし・ぶんろく)

明治26(1893)～昭和44(1969) 横浜市生まれ。小説家、劇作家。本名岩田豊雄。代表作に「悦ちゃん」「海軍」「てんやわんや」「自由学校」。昭和44年文化勲章

「宇垣日記」

「陸軍がなぜ騒いだかといふと、「あいつが出たら、我々のわがままができぬ」といふことに尽きるだらう」

▽石原らの本音は 力のある宇垣が 出てきたら
自分たちの 国防国家作りが やりにくくなる

●「もし、宇垣内閣が出来ていたら、支那事変(昭和12年7月)は起こらなかったろう」と言う人がいるが？

▽宇垣は 自分の首を 絞めることになった
現役武官制復活に「誠に結構至極である」

▽陸相時代(昭和6年1月) 各軍司令官 師団長に
「国防は政治に先行する」と 極秘通牒

▽中堅将校が 各地で 国防問題講演会を開いたが
軍閥的思想以外の 何ものでもなかった

●もし、山本政権が続いていたら…

▽大隈内閣 寺内内閣はなく

原敬の政党内閣に すんなり 移行していたら

▽第1次世界大戦の対応も 変わっていたら

政党政治も もっと しっかりしたものに

▽何より残念なのは 山本が 海軍を追われたこと

▽山本は 常に まず海軍を見た しかし

一段と 高い所から見ることを 忘れなかった

▽ロンドン軍縮会議(昭和5年4月)の時

山本に 発言権があったら

条約派 艦隊派の 海軍分裂は 防げていたら

▽条約締結に尽力した 山梨勝之進など

良識派の人材が 海軍を 追われていった

▽若槻(ロンドン会議議長)が 山梨に

「あなたは大臣、連合艦隊司令長官に当然なるべき人なのに」と 気の毒がると

山梨は「軍縮のような大問題は、犠牲なしには決まりません。自分がその犠牲になる積もりでやったのですから、少しも残念とは思っていません」

▽シーメンス事件は 海軍から 山本を奪い

目に見えない躓きを 日本に与えた

▽山本は 昭和8年 81歳で亡くなった

石原 莞爾(いはら-かんじ)

明治22(1889)～昭和24(1949)山形県生まれ。陸軍中将。昭和3年関東軍参謀。満州占領を計画、6年柳条湖で満鉄を爆破し、満州事変を起こす。12年参謀本部作战部長となり、支那事変拡大に反対。東条と対立し、16年予備役。翌年立命館大教授。東亜連盟運動を指導した

宇垣陸相名の極秘通牒

軍人は世論に惑わず、政治に干与してはならぬことは、勅諭に明示されているとおりである。しかし一面、軍人は国家の国防を担当している。国防完からざれば、国家危きことはいうまでもない。しからば国防問題について論議することは、いわゆる政治干与をもって論ずべきではない。国防は政治に先行するものであることを諒承されたい。

「六六艦隊」を造った時

山本は、戦艦6隻を全て英国に発注、万一ロシアと戦争になったらイギリスを味方につける計算をしていた。

ロシアが、欧州から艦隊を極東に回航する場合、大きな軍艦は水深の浅いスエズ運河を通れないから南アフリカの喜望峰回りになる。この海域は英国の勢力圏。英国が日本に好意的な中立を守れば、ロシア艦隊は石炭補給、軍艦修理に困るだろう。

日露戦争は山本の読み通りになり、バルチック艦隊は対馬海峡にやって来る前に疲れ切ってしまう。日英同盟(昭和35年1月締結)の布石を、この時から打っていたのだ。

皇室から贈られた詠詞(和歌)

炯眼人ヲ知り克ク任ジ、豪胆事二当
タリテ善ク断ズ